

第2次恵那市総合計画地域計画

自治区名	飯地地域自治区
------	---------

【地域の現状】

飯地町では人口が700人を割り、少子高齢化が進んでいます。このまま推移すると、50年後には人口が半減し、地域の存続が危ぶまれます。また、地域づくりを担う人材も高齢化が進んでおり、行事や役の負担が過大になっています。

こうした現状を踏まえ、今後このまちを存続し、次世代に引き継ぐためには、人口減少に歯止めをかけること、とりわけ若者や子どもの数を増やすことが最重要課題と考えます。

【キャッチフレーズ】

みんなの想いを重ね合わせて、子どもの声が響くまちへ

【目指すべき地域の姿(地域の全体構想)】

今いる若い世代が安心して住み続けられるよう、宅地や住宅の確保をはじめとした環境整備を進めます。また昨今、都市住民のあいだに「田舎暮らし志向」が高まっていることから、こうしたIターン希望者を積極的に受け入れるとともに、町出身者のUターンをあたたかく迎え入れる体制をつくります。

さらには、安心して子育てができるよう、「まちぐるみでの子育てサポート体制」を整備することで、子育て世帯の増加を図ります。

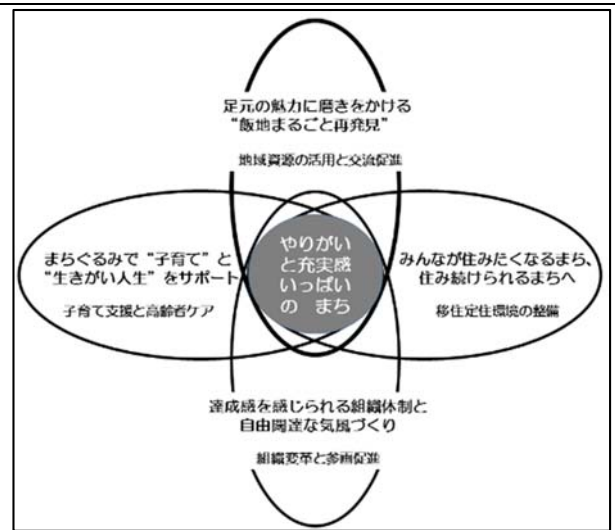
まちの魅力を高めることも重要です。飯地町には恵まれた自然や食文化、地歌舞伎等の地域資源が多数あります。また老朽化した施設に手を入れることによって、魅力的な交流拠点として再生することが可能です。こうした魅力資源を町内外の人々が一緒になって、交流・体験しながら掘り起こし、磨きをかけていきます。

これらの活動を円滑に行うためには、組織体制の見直しが不可欠です。現在の人口規模に見合った、コンパクトで機動的なまちづくり組織への変革を図ります。また、形式的な会議を廃し、若者や女性も含めて誰もが自由闊達に発言できる気風を育てていきます。そうすることで、これまでとたく義務感や負担感が大きかったまちづくり活動を、住民一人ひとりが主役となって、創造的でやりがいのある活動へと転換していきます。

これらの施策は縦割りではなく、相互に結びつきながら相乗効果を発揮していきます。それにより、飯地町が小さいながらも充実感いっぱいのまちに成長することをめざします。行政ではできない、地域だからできる「人と人との支えあい」により、地域に暮らすみんなが生涯健康で生き活きと安全に安心して住み続けられ、訪れる人に感動を与え、移り住みたくなるまちづくりを目指していきます。

【計画の柱(基本目標)】

1. みんなが住みたくなるまち、住み続けられるまちへ ～移住定住環境の整備
2. まちぐるみで“子育て”と“生きがい人生”をサポート ～子育て支援と高齢者ケア
3. 足元の魅力に磨きをかける“飯地まるごと再発見” ～地域資源の活用と交流促進
4. 達成感を感じられる組織体制と自由闊達な気風づくり ～組織変革と参画促進



【基本施策】

1. みんなが住みたくなるまち、住み続けられるまちへ
～移住定住環境の整備

(1) 定住の促進

今いる若い世代の人たちが結婚やお子さんの誕生などを機に家を飯地町内に建て、住み続けることができるように、宅地や住宅を確保し、情報を発信します。

加えて、移住者を呼び込むために、空き家の確保や、古民家リフォーム塾などを並行して行います。また移住者が地域に溶け込めるよう、地域面談や、風習や行事の情報提供を行うなど、移住者とまちの人たちが良好な関係を築けるようなサポート体制をつくっていきます。

このような受入体制を充実させ、みんなが住み続けられるまちにすることで、一旦飯地を離れた人たちも帰って来たくなるまちになっていくことを狙いとしています。

(2) 安心快適なまちづくり

飯地は犯罪・交通事故などが少ない、安心安全のまちと言えます。

しかし、地震、豪雨などで道路が分断すれば、地域が孤立してしまう恐れもあります。各自治会の少ない人数の中で、各自の役割を決め、助け合う防災体制を組織することが必要です。また、高齢者世帯が多く、夜間も人通りが少ないことから、防犯に対する取り組みも検討していきます。

加えて住民が不便と感じている、道路などの生活基盤の整備についても積極的に要望をしていきます。

2. まちぐるみで“子育て”と“生きがい人生”をサポート
～子育て支援と高齢者ケア

(1) 子育てと子供の成長をサポート

子育て世代の意見を積極的に取り入れ、「子育てが楽しくなるまち飯地町」とPRできるようなまちを目指します。

そのために、町内の人たちが空いている時間や得意分野を活かして託児や産前・産後サポートをしたり、習い事・勉強を教えるなど「飯地町内でできる」子育て安心サポート体制を作ります。そこに高齢者も活躍してもらうことにより、高齢者の生きがいがいづくりにもなる一石二鳥の仕組みをつくります。

また、ふるさと教育を通じて次代を担う子ども達が自分の地域を誇りに思えるようにします。

(2) 高齢者の生きがいがいづくりとケア

高齢者が健康を維持し生きがいを見つけられるよう得意分野を活かし、活躍できる場を提供していきます。

また高齢者が介護状態になるのを防ぐ取り組みを推進するとともに、万が一要介護となった場合でも、本人も介護者も安心して生活できるよう、地域密着型の介護施設を要望していきます。若者が生活基盤を確立して、夢や希望を持って人生設計ができる環境づくりや町外からの人を受け入れる態勢の充実、人材の育成・活用や交流の拠点づくりをして、定住促進及び少子化対策の取り組みをします。

3・足元の魅力に磨きをかける“飯地まるごと再発見”

～地域資源の活用と交流促進

(1) まちの魅力発見・発信

飯地に暮らしている人々と町外の人々が一緒になって、自然や食文化、地歌舞伎などまちの魅力を再発見し、ともに楽しむことで、その楽しさがあふれ出て、町の魅力を発信していくことをめざします。また老朽化した施設にもみんなの手を入れることによって、魅力的な交流拠点として再生します。

特に、飯地の自然は大きな魅力の一つです。その自然とは、人の手が入ってこそ生まれる里山の景観と考えます。それらは田舎ぐらし希望者の求める要素の一つでもあることから、農業・間伐体験など飯地の人々が活躍できる交流体験型のイベントを開催し、一緒になって楽しむことでまちへの愛着や誇りを育みます。その体験がきっかけとなり、定住者が増え、間伐・耕作放棄地の解消など農林業の担い手が育っていくような施策の展開をすすめていきます。

(2) 自立に向けた事業づくり

行政の財政が厳しくなる中で、まちづくりに使える金額も限度があります。行政に頼らない自立した地域づくりを進めていくために、まちづくり資金を捻出する事業展開を進めていきます。

また地元で生業が継続できるように、商工会などを中心とした地域通貨など

を検討していきます。

4. 達成感を感じられる組織体制と自由闊達な気風づくり ～組織変革と参画促進

(1) 組織体制・事業の見直しによる負担軽減

自治会、各種団体組織の活動について、リーダーが高齢化していることや、行事や役が多く負担という声が多くあるとともに、世代間の交流も乏しく情報共有が十分でないなど課題があります。また消防団の活動や内容について検討する必要があります。

そのためには地域協議会と自治連合会の一本化など人口規模に見合った組織体制、事業の選択と集中を進めていきます。

(2) 自由に語れる気風づくり

世代を超えた交流や、自由な雰囲気での意見交換を行う場がきわめて少ないため、新しい意見や、変革を促す意見が熟考されずに見過ごされています。その事が、若い世代の「押し付けられ感」や「無気力感」の原因となっています。

これを解消するため、世代を超えて自由に意見交換のできる場をつくり、自発的にまちづくりを担う人が育つ気風をつくっていきます。

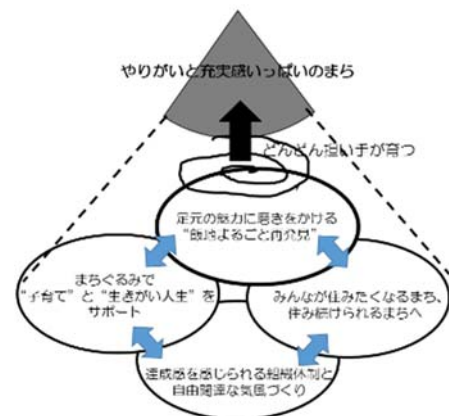
●施策相互の相乗効果について

それぞれの施策は縦割りで機能を発揮するのではなく、相互に関係しあいながら、効果を発揮しあい、年月を重ねるごとにより良いものへと町が変化していくことをねらいとしています。

たとえば、組織改革で役や行事の負担が減った人が、空いた時間を子育てサポートに使い、若いお母さんたちが安心して子供を預けられるようになれば、その人たちが町の魅力発信や、移住者サポートなどやってみたい活動に挑戦し、まちを元気にしてくれます。

移住者サポート体制が整い、移住者が増える
と、いままで町の人たちが気付かなかった魅力を
発見したり、これまで知らなかった新しい情報や
手法を取り入れることができたりします。それにより
まちがもっと自由な雰囲気に変化する可能性
もあります。

このように、それぞれの施策が単独でなく、お互い
いからみあいながら、どんどん住みやすい、充実
感いっぱいの魅力的な町へと上昇していくことを目標としています。



【地域間連携での取り組み】

連携する地域	計画の柱(基本目標)及び施策の項目
☆飯地町 ☆笠置町 ☆中野方町	柱 ：足元の魅力に磨きをかける“飯地まるごと再発見” 項目 ；まちの魅力発見、発信 柱 ：笠置のよさをいつまでも伝え続けられるまちづくり 項目 ：ボルダリング、ユズなど地域資源の活用 柱 ：みんなが生き生きする 項目 ：魅力ある土地利用計画の作成
取り組み内容(概念)	
<p>◎((地域の魅力発信)</p> <p>笠周地区にはそれぞれ魅力となる景観、伝統芸能、食文化があります。イベントによる物販販売など各地域が連携して取り組むことにより、さらなる集客を高めて行きます。</p> <p>また、統一を持たせた地域ブランドの構築を進め、ネット販売等をはじめとする、インターネットによる情報発信を一本化にすることにより、多くの情報が集約され魅力が高まるとともに、観光など回遊できるエリアの拡大が期待されます。</p>	

連携する地域	計画の柱(基本目標)及び施策の項目
☆飯地町 ☆笠置町 ☆中野方町	柱 ：足元の魅力に磨きをかける“飯地まるごと再発見” 項目 ；まちの魅力発見、発信 柱 ：笠置のよさをいつまでも伝え続けられるまちづくり 項目 ：ボルダリング、ユズなど地域資源の活用 柱 ：みんなが生き生きする 項目 ：移住定住の促進をする
取り組み内容(概念)	
<p>◎((多種多様な人材の発見)</p> <p>笠周地区において人口減少が大きな課題となっています。UターンIターンを増やし人口減少を抑制するためには、地域の魅力を発信するとともに、交流人口を増やす必要があります。そのためには、景観、施設だけで無く、人のつながりが重要な視点となります。地域の隠れた多種多様な人を見つけるためには、地域間で連携して、広域で教授いただき活躍できるよう、後継者の育成も含めて、人材バンクの登録など、<u>人財</u>の集積を進めて行きます。</p>	

連携する地域	計画の柱(基本目標)及び施策の項目
☆飯地町 ☆笠置町 ☆中野方町	柱 ：まちぐるみで“子育て”と“生きがい人生”をサポート 項目 ：高齢者の生きがいづくりとケア 柱 ：こころ豊かに暮らせるまちづくり 項目 ：安全・安心活動の充実・子育て支援の充実 柱 ：安心して暮らせるまちにする 項目 ：福祉の拠点づくりと活用
取り組み内容(概念)	
<p>◎((福祉機能の強化)</p> <p>高齢化が進む中で、高齢世帯や、独居世帯の増加により、高齢者が安心して地域で生活するための支援体制や環境整備を進めながら介護施設等を誘致し、生き生きと元気で暮らせるよう生活環境の向上を進めていきます。</p> <p>また子育て支援も、協力して子育てができる支援体制やネットワーク化を図り、地域で子育てが楽しくなる仲間づくりを目指します。</p>	

連携する地域	計画の柱(基本目標)及び施策の項目
☆飯地町 ☆笠置町 ☆中野方町	柱 ：足元の魅力に磨きをかける“飯地まるごと再発見” 項目 ；まちの魅力発見、発信 柱 ：笠置のよさをいつまでも伝え続けられるまちづくり 項目 ：森林・農地の景観保全 柱 ：里山の恵みを活かす 項目 ：山林、原野を元気にする
取り組み内容	
<p>◎(里山資本主義による地域経済の活性化)</p> <p>笠周地域の景観を守るため、間伐の推進、耕作放棄地の解消などを進めていく上で、新たな人材が必要となります。</p> <p>これらを行っていく人材を育成し新たな起業、雇用の場となり生業ができるよう、地元企業、まちづくり団体も巻き込んだ体制を整え、6次産業化に代表される、地域経済の活性化を進めていきます。</p> <p>自然豊かな笠置山の資源を活かした環境整備やイベントの開催等により多くの集客を高めて行きます。</p>	

【全市的な共通課題への取り組み提案】

提案事項	
分野	内 容
福 祉	<p>○移送サービスの補助金創設</p> <p>恵那市は中山間地であり集落が点在していることから、高齢者において、医療、買い物など移送が必要な方が多くみえます。</p> <p>そのため送迎サービスを行っている地域がありますが、そのサービスの多くは無償ボランティアで運営していることから、車両維持管理費、燃料代など、地域のまちづくり補助金に頼っているのが現状です。今後まちづくり予算がなくなることから、これを運営していく上で必要な補助を創設願いたい。</p>
まちづくり	<p>○地域まちづくり支援のためのふるさと納税メニューの創設</p> <p>まちづくり活動として地域で使える予算が今後少なくなることから、ふるさと納税のメニューとして、各地区においてまちづくりのために使える、ふるさと納税メニューの創設を願いたい。</p>
教育文化	<p>○ふるさと教育を推進するために学校5日制の見直し</p> <p>地域に愛着を持つ子ども達を育てるためには、ふるさと教育を市において進める必要があります、そのためには現在5日制となっている授業時間数を隔週または月1回の土曜日授業を再開して、ふるさと教育の時間として活用できるよう検討願います。</p>
生活環境	<p>○簡易ガソリンスタンドの補助を検討</p> <p>飯地町において、ガソリンスタンド施設が廃業しています。地域のガソリンスタンドが無くなると、ガソリンを補給するために移動しなくてはならず、大変不便をきたしています。また、災害時においては補給ができなくなることも考えられます。</p> <p>そのために、地域の生活を守るためにも、地域でガソリンスタンドが維持できるような施策を考えていただきたい。</p>
生活環境	<p>○道路整備の推進</p> <p>地域の多くの意見として、安心安全に通行できる道路の要望が多く出ました。若者世代の定住を進めるためにも、また災害時における緊急物資の搬送などを考えると、新丸山ダム建設事業に伴う付替国道である418号の早期着工完成は喫緊の課題です。</p> <p>またこの道路はリニア新幹線開通に合わせ、可児・美濃加茂方面からの基幹道路としても活用できることから、合わせて県道恵那八百津線二車線化も含めて市としても強力に後押しをお願いしたい。</p>